

2025 年 01 月

中医学の「五官五体五華」の概念及び臨床応用

上海中医薬大学付属日本校 陳 雷

一、「官・体・華」とは

中医学的な人体を構成する器官や組織である。

(一) 官の中医学概念 感覚の器官

1. 目 視覚の器官
2. 舌 味覚と言語の器官
3. 口 味覚（口味）の器官
4. 鼻 臭覚の器官
5. 耳 聴覚の器官

(二) 体の中医学概念 身体組織

1. 筋 肢体を強めて動かす組織
2. 脈 身体各部を絡んで気血を運行する組織
3. 肉 肢体を包んで充実し、動かす組織
4. 皮 肢体の表面に覆い、全身を包む組織
5. 骨 肢体の形を支え、動かす組織

(三) 華の中医学概念 光彩状態の意味

1. 爪 肝の機能状態を外見する部位
2. 顔面 心の機能状態を外見する部位
3. 唇 脾の機能状態を外見する部位
4. 毛 肺の機能状態を外見する部位
5. 髪 腎の機能状態を外見する部位

二、「官・体・華」の生理機能

(一) 五官

1. 目 視覚 物の色形動きを弁別する。
2. 舌 ①味覚、飲食物の味を弁別する。②言語、会話する。
3. 口 味覚、口当たりを弁別する。
4. 鼻 嗅覚、匂いを弁別し、呼吸を通す。
5. 耳 聴覚、音声を弁別する。

(二) 五体の生理機能

1. 筋 ①関節の接続と規制 ②肢体運動の主宰
2. 脈 ①気血の運行 ②血行の制約 ③身体各部の接続

3. 肉 ①内臓の保護 ②肢体運動の参与
4. 皮 ①外邪の防御 ②汗液の調節 ③体温の維持 ④呼吸の補佐
5. 骨 ①身体の形の支え ②内臓の保護 ③肢体運動の協調

(三) 五華の生理機能

1. 爪 肝の機能状態を反映する
2. 顔面 心の機能状態を反映する
3. 唇 脾の機能状態を反映する
4. 毛 肺の機能状態を反映する
5. 髪 腎の機能状態を反映する

三、「官・体・華」の臨床応用

(一) 五官の臨床応用——診察方面の応用

1. 目 肝の気血が充足 視物清楚、色沢明辨
肝腎気虚、精血虧損 目昏（視力低下）
雀目（夜盲症）
肝風生熱 羞明（目眩しい）
2. 舌 心の気血が充足 舌の動きが敏捷
色淡紅、苔薄白
発音清楚
心の気血が異常 舌診の範囲
3. 口 脾気が充足 食欲あり、口当たりが通常
脾気虚 口淡/口甘（涎が希薄）
肝胆湿熱 口苦
脾胃湿熱 口甘（口内ではスッキリしない）
肝胃不和、傷食 口酸
腎虚、腎寒 口咸
燥熱傷津 口渋
4. 鼻 肺気が充足 臭覚通常、呼吸の通しがよい
肺気虚 臭覚低下、鼻づまり
風邪襲肺 鼻水
肺胃蘊熱 鼻衄（鼻血）
5. 耳 腎の精気が充足 聴覚が鋭敏
腎の精気が不足 聴力低下、耳鳴り

(二) 五体の臨床応用——①診察方面の応用 ②治療方面の応用

1. 筋 肝の気血が充足 筋肉柔和、運動正常
肝風内動 筋肉痙攣、関節硬直

寒襲肝脈 筋肉短縮

湿熱侵肝 筋肉弛軟

2. 脈 心肺及び全身の機能が正常 脈象平常、脈道通暢
心肺及び全身の機能が異常 脈道不通、脈象異常（脈診）
3. 肉 脾の精気が充足 肌肉豊満、運動正常
脾気虚 太り、肉無力
脾熱 痩せ、肉堅い/瘡膿
4. 皮 肺衛気正常 皮温色沢潤燥形態が正常
肺衛気虚 皮温異常（寒熱）
色沢異常（五色変化、艶ない）
潤燥異常（乾燥、自汗盗汗）
形態異変（斑疹瘡瘍）
5. 骨 腎の精気が充足 骨強形正
腎精気虚 骨折しやすい
体の形が異常
足腰の力が弱い

（三）五華の臨床応用——診察方面の応用

1. 爪 肝血が充足 爪が堅くて明るく紅潤で艶がよい
肝血が不足 爪が脆くて薄い、色が淡白
2. 顔面 心の気血が充足 顔面が紅潤で艶がよい、表情正常
心気虚 顔面が恍白
心血虚 顔面が淡白、艶がない
心血瘀 顔面が青紫、暗い
心陽虚 顔面浮腫
心神異常 表情異常
3. 唇 脾の気血が充足 唇が紅潤で艶がよい
脾気虚 唇が恍白、涎漏れ
脾血虚 唇が淡白、艶がない
脾血瘀 唇が青紫、暗い
脾胃積熱 唇が赤く腫れ、水疱
熱盛傷津/陰虚 唇が乾燥、枯れ
4. 毛 肺気が充足 毛が緻密で艶がよい
肺気虚 毛が希薄、艶がない
5. 髪 腎の精気が充足 髪が緻密で艶がよい
腎精不足 毛が希薄、黄色、艶がない